

宮の森



発行元・白鳥神社総代会

稲荷神社鞘堂完成

稲荷神社奉賛会が解散し、白鳥神社がその護持運営を引き受けて足掛け六年が過ぎました。引き受けとほぼ同時に、鞘堂建設を画策し五年が経過、平成二十年十一月二十五日、何とか完成する事が出来ました。建設資金の手薄な中でのスタートで、如何に安価に建設するかが課題でした。主な材料は、宮の森に林立する杉材を間伐し、その利用によりコストを節減、自分達で出来る事は自分達でやろうと話し合い、多くの人に無償、或いは安価にてお手伝い頂きました。基礎工事は(株)曾我工務店様、



迎春準備・年末 年始

間伐は三輪英一氏、製材は金山住建様、大工事は山孝建築様、屋根は曾我板金様、足場工は(株)葦島様、塗装は佐藤塗装様にそれぞれお願いしました。ご協力に對し衷心より感謝いたします。そして、稲荷神社の未來永劫と御守護を祈念するものであります。

(1) 十二月十六日と二十一日に総代全員で迎春準備を行なう。本殿と稲荷神社に門松を作り設置、お賽銭受入れ準備。拝殿内に秋葉神社を祀る。社務所前仮橋架設、仮設屋根架設、稲荷神社前スロープ作り、御神籤のくくり縄設置、篝火用の薪作りと運搬、社務所内間仕切り、縁起



物売り場設置、御神籤売り場設置、各灯笼、樹木の雪囲い、本殿、秋葉神社、稲荷神社幕張、境内音響設備設置、お神酒振る舞いテント設置、境内参道に灯明並べ等々を行い、参拝皆様の受け入れ態勢を整える。



三十一日午後九時に全員が徹夜態勢に入り篝火に点火する。今年は雪がなく、篝火に神経を使った例年の如く紅白歌合戦の終わる頃から、参拝の方々が見え始め、年を跨ぐ頃がピークとなる。本殿前特に稲荷神社前には行列が出来る。雪のない事で沢山の御参拝者を予想したが、予想より少なかった。



元旦は晴れ渡り、大鳥居の上に初日の出が美しく輝いた。



八時過ぎ頃から参拝の人達が増えてきて、終日途切れることはなかった。昔は暗い内から参拝に來られたが、昨今は明るくなってから見え、それが終日続いた。総代の方々には巫女を含め、三ヶ日を当番制で詰めていただいた。神社に詰めていると、沢山の人と出会えて、日頃ご無沙汰の人にも、新年の挨拶ができる。笑顔を戴いて、今年も頑張ろう！と気合が入る。初詣は神と人に出会える。

歳旦祭

七時半、今年は遮る雲とて無く、東の山の端に初日の出。



大鳥居の中央に光り、ダイヤモンド鳥居となった。

新元号 何か期待の 屠蘇を汲む 手水場の柄杓が凍りつく、超冷え込みの元旦。龍の口から出でる清水は、湯気を昇らせている。巫女四人が、縁起物売り場に座り、華やぐ。九時を過ぎる頃から、参拝の人が増えてきた。忙しくなり、活気が出てくる。



自治会三役を迎えて、歳旦祭を挙行。境内に「春の海」琴の調べが流れ、ピーンと張りつめた寒さの中、祝詞が奏上され、玉櫛に今年願いを込める。北欧では、猪は森の騎士と言われ、思慮深い勇者と言われます。闇雲に突き進む

伊勢参り

今年も外宮、内宮共に御垣内参拝が出来た。二百余人の柏手が神宮の森に響くのは荘厳！

次に猿田彦神社を参拝。ここは道開きの神、建設の神とされ、伊勢神宮を造り、広く国土の開拓をしたと言われる。鈴鹿市にある樺大社も、芸能の神、交通安全の神として知られている。両方共、天の鈿女の命が祀られている。内容はほとんど同じであるが猿田彦神社と樺大神宮との本家争いは謎のままである。

一日目は、伏見稲荷に参拝。狭いバスの駐車場から、大社迄かなりを歩く。そこに様々な店が並び、門前市をなしている。神社直行では儲けにならない仕組みも、商売の神様の神髄であろうか。その道中に、ウズラとスズメの丸焼きを



(2) 売っている。前日も、何故神様が殺生を許しているのか？ 解せなかったが、今回はガイドが教えてくれた。

稲荷神社は元々農業の神様だった。その証拠に狐が稲穂をくわえている。その稲穂を雀達が食い荒らす。依って、そのスズメを退治して食べた事が始まりだと聞いて納得。意味が解ったので一羽退治したが超美味だった。外国人の多い事にビックリ！彼等に神社が解るのか？



祈年祭・初午祭

二月二日、四十八名のお客様をお迎えし、挙行。

祈年祭、初午祭共に、五穀豊穣、国家安寧を祈願する共通項があるところから、数年前より同時開催しております。今年は雪が少なく、元号も五月に変わり、社会が大きく変化するのではないかと予兆を感じます。過去において、亥の年は大きく変わる歳とも言われております。心して、この一年に立ち向かい、よりよい一年になります様にと念じながら、神事を閉じました。



護持運営

この二月で左記、五名の総代が交代されました。

野崎元久様、松井利憲様、曾我健一様、葦島一隆様、川崎 弘様。長きに渡り、白鳥神社に對しまして、心こもったご支援、ご協力、誠に有難うございました。

四月からは左記の陣容で護持運営に当たります。

変わらぬご支援、ご協力を宜しくお願い申し上げます。

- 一〇号組……………山ノ下 修 一〇号組……………野々村近則
- 二〇号組……………古家孝一 四〇号組……………曾我幸男
- 五〇号組……………正者郁朗 六〇号組……………荒井義隆
- 七〇号組……………森 正明 八〇号組……………**葦島隆芳**

御寄進・ご奉仕

- 一、稲荷神社鞘堂建設に係る御厚志
- 一、本坪鈴一式寄贈……………白鳥 匿名 様
- 一、金100,000円也寄付……………金山住建 様
- 一、金30,000円也寄付……………奥美濃プロデュース 様
- 一、2トトラック無償提供……………曾我幸男 様
- 一、足場工(¥129,133)寄付……………(株)葦島・葦島朗 様
- 一、五七の桐紋(¥55,730) 寄付……………曾我板金 様
- 一、お手洗い表示看板製作……………足立好教 様
- 一、大神楽打ち鶏冠創作……………郡上北高校 様
- 一、灯籠鉄製雪囲い補修……………野崎利行 様
- 一、大神楽役者の藁草履九十足……………二輪英一 様

白鳥神社の秘密(九)……………友田勝也

隕鉄で作られた剣は、宇宙から降り注ぐエネルギーを引き寄せ、想像を超えるような威力を発揮して人々を怖れさせたであろうと僕は考えています。だとすると、隕鉄を含むと推測できる「草薙の剣」を携えた「タタラの皇子・ヤマトタケル」が、謀略によって政治の表舞台から追われ、長い遠征の末に失意の死を遂げた理由も透けて見えて来ます。

白鳥神社とは一体何か。それは、地表近くに迫り出した原始・地球の塊によって宇宙エネルギーを集散する場所。眠れる人々の魂を起動し、隠れた才能を呼び起こして本来の使命に気づかせる場所。そして超古代のタタラの民にとっては、心の拠り所であると同時に、超能力を

手にするための隕鉄採掘場所であったことでしょう。時の権力者から見れば恐るべき拠点であったはずですが、だからこそ白鳥神社は強い呪術によって長い間封印される必要があったのではないのでしょうか。

でも僕は、その歴史をネガティブに捉えようとは思いません。なぜなら、超常的な力を誰もが入手できるとしたら、それは危険なことだからです。超能力は、それを扱うに相応しい人格を持った者にこそ授けられるべきでしょう。その意味で、数百年にも及ぶ封印は、むしろ原始・地球の意志だったのではないかとさえ思っています。今、白鳥神社の封印は解かれました。それによって何が起るのかはまだよくわかりません。でも一つだけ言えるのは、私たち、つまり超古代・タタラの民の魂を受け継ぐ者、あるいは縁あってこの地に生きる者一人ひとりが、本来の意味で目を覚まし、本来の使命を果たすために動き出す時がやって来た、という事です。そう、白鳥神社の本領発揮は、まだ始まったばかりなのです。【完】



四月からの主な行事予定

- 4/3…秋葉神社防火祈願祭
- 4/7…初宮神事。新旧総代会、歓送迎会、決算報告。
- 4/14…宮掃除。宮の森内の枯れ枝清掃。
- 5/3…稲荷神社例祭神事。幟旗新調奉納。
- 6/12…自治会、総代会の二役会議。
- 6/30…宮掃除
- 7/14…境内、秋葉神社草刈り清掃作業。
- 7/28…初宮神事。

御朱印受付

ご希望の方は0575-82-4387 瀬上まで

(文責・瀬木)